

「きれいな星空を見上げる、これも道徳教育」
～小中学校道徳科研修講座～

—きれいな星空を見上げる—
理科の「月と星」で、自然の美しさにふれること、これが自然愛の道徳教育。

—ギコギコトントン—
図工でのこぎり、金槌を使うときに押さえっこすること、これが友情の道徳教育。
と、語る橋本ひろみ先生（世田谷区池之上小学校指導教諭）の小中学校道徳科研修講座を7月26日（金）に開催しました。



「あなたならどうしますか」と発問することは逆効果になる場合があること、道徳の授業は生活をよりよくするために全員が自己決定したり、みんなの考えを一つにまとめたりする時間ではないことなど、「考え、議論する道徳」への誤解を解くすばらしい時間となりました。

また、話し合い活動は、自分にはない考え方に出会う、自分と似ている考え方に出会う、自分の感じ方や考え方が見えてくるなど、自分の価値観を広げたり深めたりするものであることをあらためて認識する場でもありました。

そして、道徳の授業づくりのポイントは、教師が授業で子どもに何を考えさせたいのか一貫した指導観を持つことであることを、70名の受講者のほか15箇所での遠隔受信とともに実感できた1日となりました。

